京都外国語大学校友会教志会
平成 24 年度英語授業実践報告・研究会　報告書

作成　教志会　書記　小谷　博樹



日時　：　2012 年(平成 24 年)8 月 19 日（日）
　　午前 9 時 50 分から午後 4 時 30 分まで
場所　：　1 号館　3 階　135 教室
参加者　：　約 10 人

1）開会挨拶
教志会　会長　　田中　道博



学長挨拶
京都外国語大学　松田　武　学長

2）講演
講師　京都外国語大学教授　　熊谷　俊樹　先生
演題　“English Education in Japan : Quo Vadis?”



31 年間、米連邦政府に奉職されたご経験をもとに、今日の日本における英語教育に何が必要とされているか講演頂いた。 学生の英語力低下が著しいことを指摘された後、教える側の英語能力向上は元より、いかに活きた英語を教えるか、学生の知的好奇心を刺激する授業の大切さを訴えられた。

役員紹介

3）昼食

4）実践報告
岡山県高梁市立川上中学校　　赤木　伸　先生　(84 年卒)
「友達とつながる英語授業で活力とパワーを
　　～スキル重視の英語教育～」



中学英語での一番大切なスキルは「教科書を音読できること」と提唱された後、日ごろ取り組まれている Target Sentence の導入について、Sequence, Function, Interest, Situation を重視したワークシートの活用を紹介頂いた。
また、ペアワークで活き活きと会話する生徒の様子をビデオで見せて頂いた。

5）教材研究



参加者が 4、5 人の班に別れ、共通の Reading 資料をもとに、いかに授業で活用するか、意見・情報交換を行った。同じ資料でも様々な活用の仕方が出され、現場で実践できる有意義な教材研究の時間となった。

6）閉会　　以上